

# 人間行動学科



# 教育学コース

## ● 教育学コースとは

教育学は、社会のいたるところで行われている営みである教育を研究する学問です。「教育学部」ではなく、あくまで「文学部」に属する教育学コースでは、学校教育のみに研究対象は限定されていません。社会教育や家庭教育、広くは生涯学習と、様々な教育をあつかうことができず、それに対応するため、5つの異なる専門分野の教員がおり、集団指導の形で卒業論文までの研究を支えます。教育学コースの門戸は広く開かれています。教育にかかわりのない人生はないからです。一人旅をすること、読書をするなどでさえも教育とかわっています。学校教育を研究した方はもちろん、「学び成長する人間」について関心がある方を私たちは歓迎します。

## ● 先生の研究



教授 そえだ はるお 添田 晴雄 先生

日本の教育文化の特質を諸外国との比較を通して明らかにする研究をしています。特に、学習場面や教育場面で文字や音声とどれぐらい使われているかを比較し、それがなぜかを研究しています。西洋では音声中心で授業が進められることが多く、イタリアでは高校の数学の定期試験が口頭で行われているほどであるのに対し、日本の学習場面では、文字を書きながら学んだり、先生が黒板に板書しながら教えたりすることが多いです。それは、日本語の特性にも関連しています。アクティブ・ラーニングなどで、生徒さんが発表をする際に、模造紙、フリップ、小型ホワイトボードを用いて文字を介しながら説明することは、この日本の教育文化的特質に合致していると言えます。

## ● 学生にインタビュー

### ○コースに入ったきっかけ

私はもともと子ども心理学に興味がありましたが、大学入学後に教育学に出会い、教育を通して子どもについて考えてみたいと思いはじめました。実際、教育学コースでは子どもの貧困について学んだり、教育現場での子どもを観察したりと、自身の興味に合った内容を学んでいます。「教師を目指す人はもちろん、そうでない人も大丈夫」という先輩の話も決め手の一つです。

### ○自身の興味

私は現在「幼児期の人間関係」に興味を持っています。教育学の授業の一環として幼稚園教育を観察した経験や、私自身幼なじみの存在に価値を感じることが興味のかきかけです。教師と生徒間、親子関係、子ども同士など教育は様々な関係性のなかに存在すると考え、特に私は子ども同士の中にある学びに興味があります。

### ○コースの雰囲気・特徴

学生同士はもちろん、先生と学生の距離も近いことが魅力です。その距離の近さから、授業中も和気あいあいと意見交換する場面が多くあります。また身近な学校や教育にいて、先生目線では、制度面では、歴史的には、国ごとの違いはなど、多くの視点から考え直すことができることも教育学コースの面白さの一つだと思います。

## ● 卒論タイトル例

- ・中学校野球部の打撃指導において動作分析の知見に基づく指導は生徒に自身の動作の言語化を促す—A中学校での実践—
- ・子どもの貧困に対する文化的支援—コミュニティセンターにおける子ども食堂の活動に着目して—
- ・中学校において「英語の授業は英語で行う」際の現状と課題—移行期の中学校現場の教育実践から—

## ● 教育学コース オススメ入門書

『資質・能力「理論編」』（国研ライブラリー）東洋館出版社、二〇一六年

【著者】国立教育政策研究所編

【紹介】

新しい学習指導要領の理論的基盤となつている「資質・能力」が豊富な実践例とともに分かりやすく説明されています。

教科書の中に書いてある「正解」が絶対的で、それを覚えれば世の中で十分生きていけるといった時代はとくに終わっています。これからの社会は想定外の連続です。新型コロナウイルス禍はその始まりと言えます。かつて経験したことのない課題に直面する。さあ、どうしていいかわからない。そこから、みんなで智慧を出し合つて模索しながら、課題を乗り越えていくこととなります。大人も子どもも一人一人が自分なりの考えを持って、人と対話し、協働しながら、新しい考えを創造する力が求められています。そういった力を子どもたちにも身につけさせていければいいのかについて、理論と実践から説明しているのが本書です。

紹介されている実践では、子どもが活き活きと学んでおり、それを読むだけでも元気がわいてきます。

## ● 教員紹介

**添田 晴雄 教授** Haruo Soeda  
比較教育文化史、教育・学習における、話すことと聞くことの研究。特別活動、いじめ問題の国際比較  
『文字と音声の比較教育文化史研究』（東信堂、2019）

**森久佳 准教授** Hisayoshi Mori  
教育学（教育方法、教師教育）  
共著『教職概論：理想の教師像を求めて』（大学図書出版、2020年）

**辻野 けんま 准教授** Kemma Tsujino  
教育経営学、教育行政、学校経営、ドイツの教育  
共著『現代の学校を読み解く—学校の現在地と教育の未来—』（春風社、2016）

**島田 希 准教授** Nozomi Shimada  
教育方法学、授業研究  
共著『授業研究のフロンティア』（ミネルヴァ書房、2019）

**柏木 敦 教授** Atsushi Kashiwagi  
日本教育史、初等教育制度政策史  
『日本近代就学慣行成立史研究』（学文社、2012）  
共著『教育史研究の最前線II』（六花出版、2018）